

目次

はじめに i

序章 「世界遺産」と「まもる」と…………… 1

1 「世界遺産」について…………… 3

「世界遺産」とは 3

世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約 3

世界遺産登録の過程 4

世界遺産の評価基準 7

顕著で普遍的な価値 9

オーセンティシティ 10

文化的景観 ¹²

2 「まもる」と「ことについて」…………… 15

第一章 まなざし

- 1 白川村と「白川郷」……………19
- 2 「大家族」から始まった合掌造りの建物の研究……………25
 白川村研究のはじまり 25
 「大家族」から合掌造りの建物へ 27
- 3 「太古の遺風」をもとめるまなざし……………30
- 4 まなざしに翻弄された「大家族」の遠山家……………35
- 5 合掌造りの建物——民家研究のはじまり……………40
 マタダテと天地樑元造り 40
 便所奇譚 44
- 6 観光資源の元祖——白水瀧……………46
 白川村の観光資源の変化 46
 那智にも負けない白水の瀧 49
- 7 白川村の「典型的」な集落だった保木脇……………53
- 8 悲しみのイメージ——ドラマチックな加須良……………58
- 9 文化財指定をめぐる状況と集落景観——苜倉から荻町へ……………62

	文化財指定以前の合掌造りの建物の研究	62
	稲垣榮三らによる調査と「建築史研究」への展開	65
	文化財指定へ	67
10	ブルーノ・タウトの威力と「普遍性」	72
11	観光地への胎動	75
	御母衣ダム——観光地化のきっかけ・過疎と村起こし	75
	荻町の俯瞰景の発見	79
12	文化財としての集落景観——重要伝統的建造物群保存地区選定と「計画」の視点	83
	合掌造りの建物から荻町の集落景観へ	83
	重要伝統的建造物群保存地区への選定と計画の視点の導入	84
13	「観光立村」と「白川郷」の変化	89
	観光立村	89
	雑誌「旅」にみる観光目的地としての「白川郷」の誕生	91
	縮む「白川郷」	95
	二種類のネガティブな感想	97
14	世界遺産の価値	100
	世界遺産の内容	100

	世界遺産の価値	101
	他地域の遺産との比較	104
	推薦書の「大家族」の扱い	105
15	消費の対象としての「ふるさと」	106
第2章 景観		
1	景観と変化	119
2	建物	122
	合掌造りの建物とは	122
	合掌造りではない建物たち	128
	新たに合掌造りの建物をつくってはいけない訳	130
	規制と増築と——事例その一	134
	規制と増築と——事例その二	137
	「修景」のジレンマ	140
3	そのほかの要素——農地・水路	145

6	生業と景観	177
	土地利用と景観	176
5	土地利用の変遷	172
	昭和期から現在までの森林の変化	170
	江戸から昭和初期にかけての森林の利用	167
	絵図から見た林相の変化	163
	森林の外観の変化	163
4	森	163
	道のデザイン	161
	駐車場と交通問題	158
	放水銃	155
	水路	150
	農地	145

第3章 意識

1 世界遺産になつてプラスかマイナスか

プラスとマイナス両方ある 187

商売している人、していない人 188

知名度アップによる意識の変化 189

規制は厳しくなったのか 190

世界遺産をまもっていけるか 191

2 「観光」をめぐる住民と観光客の意識

観光の実態 193

住民 vs 観光客、観光客 vs 観光客 196

理想のイメージと実際のイメージ 200

3 住民と観光客が見たもの——写真撮影調査の結果から

写真撮影調査とは 205

どこから撮影しているか——私だけが知っている景色 206

名脇役は何か——森林、樹木、田んぼ 210

被写体になりやすい合掌造りの建物	214
妻面は合掌造りの顔	217
そのほか撮影されたもの	218
「生活」と「郷愁」	222
4 観光地としての成熟と新しい取り組み……………	228
「見せ方」の変化	228
テーマパークかゲッターか	232
「売る」ワザ	234
「結い」の継続と変化	239
あとがき	247